

## ご挨拶

島根県土地改良事業団体連合会 会長 楫野弘和

春暖の候、皆様方には益々ご清祥のこととお慶び申し上げます。

また日頃より本会の運営並びに農業農村整備の推進につきまして、格別のご支援とご協力を賜り厚く御礼申し上げます。

このたび役員改選に伴う理事会において会長に就任しました。役員、会員の皆様とともに、本県農業農村の活性化及び土地改良関係団体の発展並びに本会の円滑な運営に努めてまいりますので、引き続き皆様方のご支援、ご高配を賜りますようよろしく御願ひ申し上げます。

さて、本県の農業・農村は、中山間地域を多く抱え、農村の過疎化、農業従事者の減少・高齢化を背景とする労働力不足や農村集落機能の低下に加え、昨年7月から8月にかけての豪雨等、自然災害の頻発化や新型コロナウイルス感染の影響等、様々な課題に直面しています。

このような中、3月22日に国の令和4年度予算が成立し、農業農村整備関係予算では昨年度の補正予算等も含め6,300億円が計上されました。

また、今国会で土地改良法が改正され、県土連の業務に会員から委託を受けて工事を実施することが明記されました。これまでも土地改良事業の実施に当たって調査・設計といった様々な業務委託を受けて実施してきていますが、工事の発注や工事の施工管理監督といった業務も含めた包括的な工事を受託することが出来ることになりました。

この法律改正によって技術職員が不足している会員から委託を受けた場合には、本会のマンパワーが効果的に発揮出来るよう更に技術力向上に努めるとともに、今後とも会員の多様なニーズと負託に応えるべく、役職員一丸となって努力してまいります。

さらに、今後とも本県の緑豊かな農村地域が維持保全され、人々が住み続けられるための条件整備に必要な予算確保をはじめとした要請活動を展開してまいりますので、皆様のご理解とご協力を御願ひ申し上げ、ごあいさついたします。



◆ 会長ご挨拶	1
◆ 令和4年度水土里ネット島根新体制	2
◆ 第63回全国土地改良功労者等表彰授与式開催	3
◆ 令和3年度地理情報システム高度利用推進事業研修会開催	3
◆ 令和3年度 新技術・新工法の説明会開催	4
◆ 4月の主な予定	4

# 令和4年度 水土里ネット島根 新体制

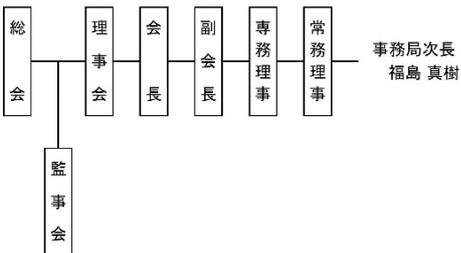
【理事 11名】

- 会 長 楯野 弘和 (大田市市長)
- 副 会 長 田中 武夫 (安来市長)
- 専務理事 渡部 明孝 (学識経験者)
- 常務理事 高橋 裕司 (学識経験者)
- 理 事 塚原 隆昭 (飯南町長)
- 理 事 飯塚 俊之 (出雲市長)
- 理 事 嘉戸 隆 (美郷町長)
- 理 事 久保田 章市 (浜田市市長)
- 理 事 岩本 一巳 (吉賀町長)
- 理 事 池田 高世偉 (隠岐の島町長)
- 理 事 加藤 滋夫 (松江市土地改良区理事長)

【監事 3名】

- 代表監事 山本 浩章 (益田市市長)
- 監 事 秋田 勝秀 (邑智郡石見土地改良区理事長)
- 監 事 青砥 正幸 (JA島根中央会常勤監事)

参 与 吉岡 達雄  
(兼ため池保全管理サポートセンター専門指導員)



【会員】

市 町 村	19
土地改良区	33
計	52 会員

【職員】

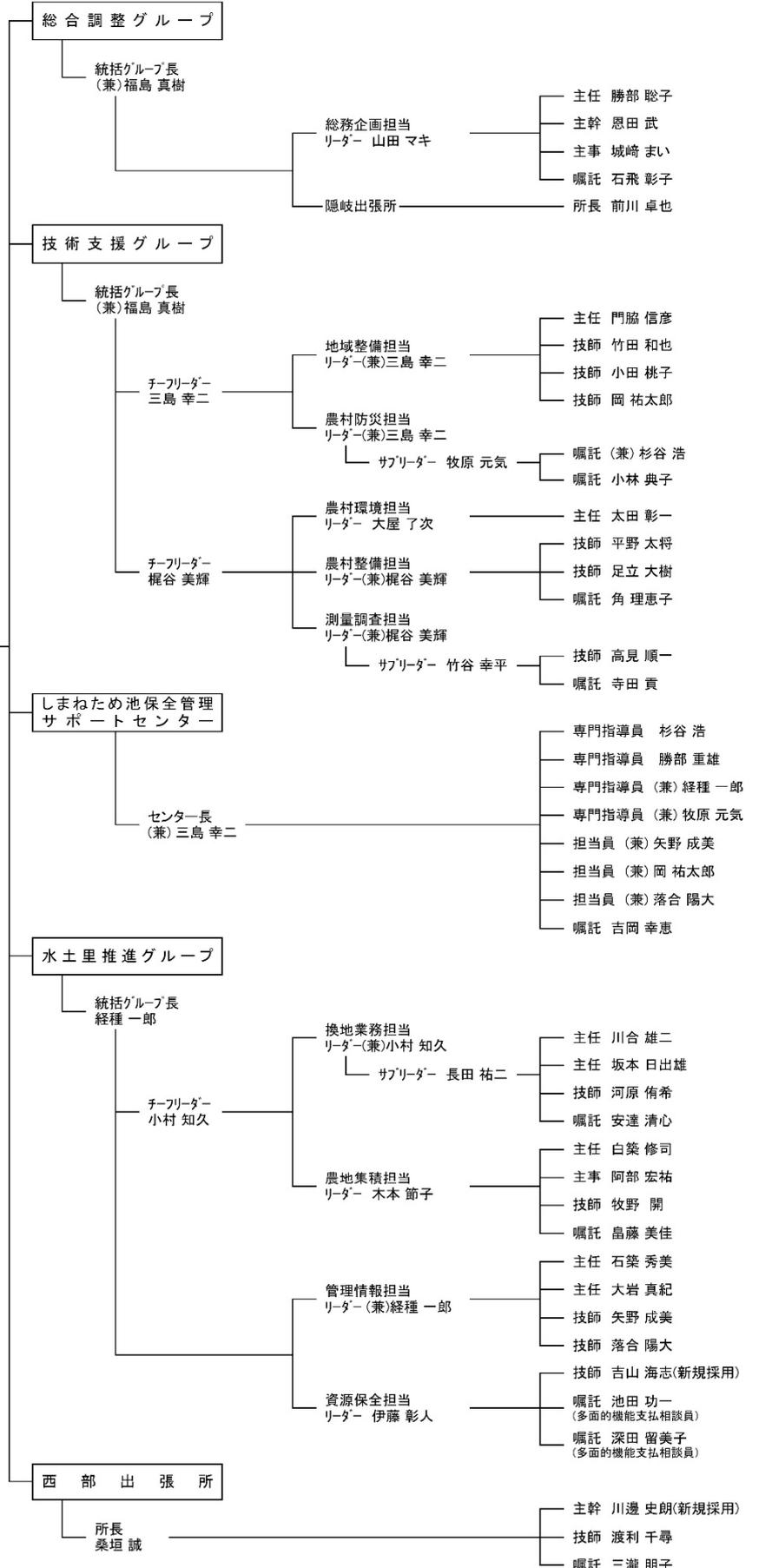
職 員	29
主 任	9
嘱託職員	13
計	51 名

【退任・退職/3月31日付】

- 多久和卓志 (専務理事)
- 前川卓也 (隠岐出張所所長)
- 東 博行 (技術支援グループ 農村防災担当リーダー)
- 勝部聡子 (総合調整グループ 企画・会員支援担当リーダー)

【新規採用職員/4月1日付】

- 吉山海志 (水土里推進グループ資源保全担当)
- 川邊史朗 (西部出張所)



## 第63回全国土地改良功労者等表彰授与式開催

3月28日(月)松江市内において、第63回全国土地改良功労者等表彰授与式が執り行われました。

3月に東京で全国土地改良事業団体連合会の総会時に開催予定だった授与式が新型コロナウイルス感染症の影響で中止となったことを受け、県内で開催される運びとなりました。

この表彰は、日々困難な土地改良区の活動や運営に長年携われ、ご尽力された方々に贈られるもので、本県からは、次の2名が表彰の栄に浴されました。



役員表彰 篠原栄次 (益田市土地改良区常務理事)  
職員表彰 富岡利行 (出雲市斐川土地改良区事務局長)



この度の受賞、誠におめでとうございます。

## 令和3年度地理情報システム高度利用推進事業研修会開催

3月16日(水)午前10時から、全国土地改良事業団体連合会主催のもと、令和3年度地理情報システム高度利用推進事業研修会がオンライン方式で開催されました。本事業は、土地改良職員等が減少する中、農業水利施設の管理体制を強化するため、施設の日常管理へのドローン等の新技術を活用し、取得したデータの地理情報システム(GIS)への蓄積・共有・利用(GISの高度利用)を図ることで施設管理の省力化や高度化に向けた取り組みを推進するもので、実証実験や現地研修会の開催、実証成果も基にした手引き書の作成が事業内容となっています。

今年度は事業2年目であり、以下の3道県で実施された実証実験の事例発表が行われました。

- 北海道：「将来の維持管理に向けたドローン等技術の活用について(幌向川地区)」
- 岩手県：「岩手地区(山王海、岩手山麓)」
- 大分県：「駅館川地区」

実証では、ドローン等を活用したダムや用水路の日常管理を行うことにより管理が省力化されるかどうかを視点を、従来の巡回目視による場合とドローンを活用した場合をそれぞれの方法ごとに時間や人数、調査に係る費用などを比較検証されていました。

近年、農業分野でも農薬散布や肥料散布、空中撮影で情報を得るほ場センシング等でドローンの活用が急速に進んでいます。また、来年度は「操縦ライセンス制度」の導入や「無人航空機の登録の義務化」などドローン関連制度も改定される模様です。

本会でもこうした技術の研鑽と関係法令を遵守し、会員サービスに努める所存です。ドローンを活用した業務等のご相談は水土里推進グループ担当者までお寄せください。

## 令和3年度 新技術・新工法の説明会開催

中国四国農政局土地改良技術事務所が主催する「令和3年度 新技術・新工法の説明会」が令和4年3月16日にオンラインで開催され、本会から2名が参加しました。

積算担当者会議の際にリクエストの多かったものについて中国四国地区の国営事業所や県等が説明を受けました。説明のあった技術・工法は以下の通りです。

- ・RMA工法（株式会社ケー・エフ・シー）
- ・省合金二相ステンレス鋼（日鉄ステンレス株式会社）
- ・べた〜とシート（小泉製麻株式会社）
- ・ウェアラブルカメラ遠隔作業支援システム（西尾レントオール株式会社）
- ・超低空頭場所打ち杭工法（鉄建建設株式会社）
- ・地下かんがいシステム「RaRaSui」（デンカ株式会社）

中国四国農政局土地改良技術事務所では農業農村整備事業に関する新技術・新工法の募集を行い、その結果をホームページにて公表されています。

### ルーラル・ミーティングinしまね R4 開催予定

開催日時：令和4年6月3日（金）午後1時30分～午後4時30分

開催場所：出雲市民会館大ホール

内 容：「農業農村のこれから」

基調講演 （一社）持続可能な地域社会総合研究所長 藤山 浩

特別講演 参議院議員 進藤金日子

詳細は5月号でお知らせします

### 4月の主な予定

開催日	行 事 等	開催地
4月19日（火）	都道府県土連会長・事務責任者会議	東京都



### 水土里ネット島根（島根県土地改良事業団体連合会）

〒690-0876 島根県松江市黒田町432-1 島根県土地改良会館 TEL 0852-32-4141  
 ホームページ<http://www.shimanedoren.or.jp/> メール[smndoren@shimanedoren.or.jp](mailto:smndoren@shimanedoren.or.jp)